

令和2年度 上田市立本原小学校 自己評価シート(関係者用)

学校教育目標	めざす子ども像
<p>なかよく たくましく かんがえて</p> <p>【令和2年度の基本理念】 学ぶ喜びを感じ、 明日を楽しみに来る学校</p>	○地域を愛し、自分が好きで、人にやさしく思いやりのある子ども
	○粘り強く考えられる学習意欲の高い子ども
	○堂々と挨拶や考えを言えたり、自分に自信を持って取り組んだりできる前向きな子ども
	本年度の重点目標
	もっとかんがえる: ○自分で考え、話して考え、聞いて考え、考えを深めていく子ども
心をこめて伝える: ○相手を大切にしていることを伝える子ども(あいさつ・コミュニケーション) ○考えや思いを伝える子ども(学び)	

分野	重点活動	学校評価の中核的観点
教 育 活 動	なかよく 大切に 一人一人の子どもを大切に 学級づくり・学校づくり	○子ども同士、子どもと教師が人権感覚を磨いているか。(あいさつ、あたたかなことば遣い等)
		○子どもが自己肯定感を高めているか。(自分が好き、自分に自信がある、自分でがんばる等)
		○いじめや不登校を解決に導き、楽しい学校づくりができたか。(いじめを見ぬく、長期欠席に真摯に対応する)
	たくましく 健康・安心・安全の意識の育成と体力の向上	○健康への意識を高める工夫ができたか。(保健体育・外遊び・運動集会の充実)
○安心・安全な生活環境づくりの工夫ができたか。(保健指導、環境整備)		
○清掃や係活動など働くことに積極的に取り組めるよう働きかけているか。		
		○「かんがえるくん」(もっとかんがえるための掲示)を活用し、考えを深める授業を工夫しているか。

総合評価		
<p>・コロナ禍にありながら学校行事や学年行事を工夫して計画していただけたことは素晴らしい。学校行事が縮小、中止が余儀なくされたが、これを踏み台にしてがんばってほしい。</p> <p>・6月に学校が再開された当初は、子どもたちの表情や姿勢、集中力に課題を感じたが、次第に活気を取り戻し、学習も積極的にようになってきたように感じた。学力診断等を通して、児童の学習への理解の状況を把握して、次年度に向けて進んでほしい。</p>		
評価	成果と課題	改善策・向上策
A:0 B:4 C:0 D:0	・学校全体で、先生方がクラスを問わず目をかけてくれているなど感じられる。	・理解が進んで満足している子、自分の考えが間違っているのではないかと不安に思っている子等、さまざまな児童がある中で、一人一人の考えを取り上げられるようにしてほしい。
A:0 B:5 C:0 D:0	・臨時休校明けは元気がなく感じたが、少しずつあいさつがふつうのことになってきたと思う。一方、すすんであいさつできる子が少なくなつたように感じられる。	・学校ではあいさつしてくれることの方が多い。率先して大人も声をかけたり、家庭でのあいさつも大切にしていきたい。

評価	成果と課題	改善策・向上策
A:0 B:4 C:0 D:0	・学級内のルールや先生の言葉遣いが気になることがあるとしたら、留意が必要である。	・あいさつをはじめ、その子のことば、身体表現、眼、気持ち、よさを言葉で心にストックしていく。
A:0 B:4 C:0 D:0		
A:3 B:2 C:0 D:0	・先生方が子ども同士の関係性をよく知っていてくれると思う。	・保護者、子どもに選択肢をより多く示して、指導の工夫をしてほしい。
A:3 B:3 C:0 D:0	・コロナ禍で体を動かすことが少なくなり、体面で心配もあったが、校内でよく遊ぶ子どもたちの姿が見られるようになった。コロナの件は心配ではあるが、仲間と遊ぶことは大事なことである。コロナ禍のなかで例年以上に自分たちの体調を知ることができたと思う。	・コロナの心配もあるが、遊べる環境が整ったので、大いに身体を動かしてリフレッシュして、また学習に集中できるようになってほしい。 ・子どもたちがソーシャルディスタンスを守り、マスク、手洗いなどの指導を継続してほしい。
A:2 B:2 C:0 D:0	・新型コロナウイルス拡大という今まで誰も経験したことのない中で、子どもたちの生命を守ることに全力で取り組めたことは感謝している。 ・通学時の送迎の車の乗り付けに課題。	・ソーシャルディスタンスをとって生活する事は、やむを得ないことであるが、その中でも人と人のつながりについては今後も一層工夫していきたい。 ・子どもの安全を第一に、車で送らない生活リズムを見直したい。
A:0 B:3 C:1 D:0	・清掃や係活動への取り組みに、積極的にやる子、そうでない子の差があるようだ。	
A:0 B:4 C:1 D:0	・今までの学習を生かしたり、注目したりして学習に立ち向かえるよう、掲示物、学習問題の掲示などがよく工夫されていた。	・視覚的な配慮が有効だと思う。「伝える」ことが得意な子、苦手な子もいるので、その子どもにとって上手に伝えられたのか、またそれが社会的にきちんと伝わるかの評価・指導をしていく。

	か ん が え て	○すべて(S)の子ども(K)の学び(M)が充実する授業づくり(SKM 充実授業)	○「つたえちゃん」(心をこめて伝えるための掲示)を活用し、対話したり思いや意図を話したりする授業を工夫しているか。
			○すべての子どもの力を更に伸ばすような授業実践をしているか。(ユニバーサルデザイン化、教室環境、教材準備等)
学 校 運 営	○様々な教育活動・体験活動を通し、豊かな心の育成	○「原っ子応援団(学習支援ボランティア)と連携し、地域に根ざした活動の場を設け、体験活動を充実させたか。	○児童会活動、縦割り班等の交流を通して、積極的に体験活動できるよう工夫しているか。
			○学校だより、学級・学年だより、安心・安全メール、ホームページにより情報を伝えているか。
学 校 運 営	○子ども・保護者・地域との信頼関係を深める	○連絡帳、電話などで保護者と連絡をとり、信頼関係を深めているか。	○学校内外の相談体制の周知、受け入れ体制の整備を進めているか。

A:0 B:6 C:0 D:0	・子ども同士での短い会話はあるが、自分の考えを筋道を立てて対話する力を育てたい。	・考える場面で、自分の考えた過程をきちんと話ができるようになる とよい。
A:0 B:5 C:0 D:0	・拡大コピーやデジタル教科書を使い、視覚的に有効であると感じた。 ・気が散らないように棚などにカーテンをするなどの工夫がされていると感じた。 ・修学旅行の計画(6年生)、高原学習の計画(5年生)では、子ども自身に考えさせるよう、調べ学習を取り入れていた。	・今後の一人一台端末活用に期待。タブレットに慣れている今の子のニーズにもあっていると思う。同時にネットの使い方にももっと興味をもてるとよい。
A:3 B:2 C:0 D:0	・ボランティアの協力をいただいていたが、新型コロナウイルス感染警戒レベルを配慮し、計画した内の2~3割しか体験活動ができなかった。	・いつでも活動ができるように関係機関と準備を進めていく。 ・ボランティアがなぜ必要なのか、子どもたちがボランティアにお願いしたいと思うような授業展開の工夫も大切にした。
A:3 B:1 C:0 D:0	・6年生を中心に、たてわり班活動が充実し、はりきっている子どもの姿が見えた。	
A:0 B:4 C:1 D:0	・学校からの通信等は楽しみである。 ・学級や学年からのお便りに発行のばらつきがないようにしたい。また、情報にミスがないようにしたい。	・継続して、こまめに発信していただきたい。
A:1 B:4 C:0 D:0	・連絡帳以外でも話す時間をつくっていただき、とてもよかった。	・何か問題があったときは保護者に継続的な連絡や指導経過が伝わると安心なので、連絡や報告を継続してほしい。
A:0 B:4 C:1 D:0	・学級で困っている子は家庭でも困っている子なのだろうと思う。複数の目で見て、対応を考えていくことを大切にしてほしい。	・外部の相談機関や中間教室などの存在を周知したり、学級担任以外の支援の先生の関わりも大切にしていってほしい。

評価 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった